

R3年度キャッシュレス決済端末導入モデル事業

中心市街地におけるキャッシュレス化の推進及び、端末導入店舗の各種決済データを活用したデータマーケティングを実施するため、モデル店舗を選定し、オールインワン端末の貸与を行いました。
期間は、令和3年8月1日より令和4年7月31日までの一年間で、飲食店18店舗・物販店2店舗の計20店舗で実施しました。

(飲食店18店、物販店2店の合計20店舗のデータによる)

クレジットカード決済が多く、全体の65%になります。次いで、QRコード決済が27%となり、合わせると90%を超えました。半面、電子マネー決済は8%にとどまり、実施期間は新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド利用が皆無だったため、中華系決済はほとんど使われていませんでした。今後の数字は変わってくると思われませんが、現時点ではクレジットカード決済とQRコード決済の二つを備えていれば十分だと思われま

す。ただ、個店別でみると業種や店舗ごとに客層や単価などが違い、決済方法や割合に差が出ています。比較的、安価な客単価の店ではQRコード決済や電子マネー決済が多く使われている傾向が強く、逆に高価な単価の店ではクレジットカード決済が多く使われていました。平均単価で見ると、1万円を超える時にカード決済の利用が多く、それ以外の時には他の決済方法が使われていました。

ヒアリングによると平均でキャッシュレス決済と現金払いとの割合が3・7くらいの為、今後ますますキャッシュレス決済の増加が見込まれます。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、店舗によって休業期間があり実際の数字はもっと上積みされると考えま

す。一方で、現金払いをお願いしていた店舗もあり、今後のキャッシュレス化推進に向けては課題も残りました。

今回の事業では、半数を超える店舗で業務効率の向上が見られたと回答し、8割以上の店舗から便利だったと回答を得ました。反対に、端末利用料や手数料などの一定のコストもかかるため、継続をためらう店舗もありました。

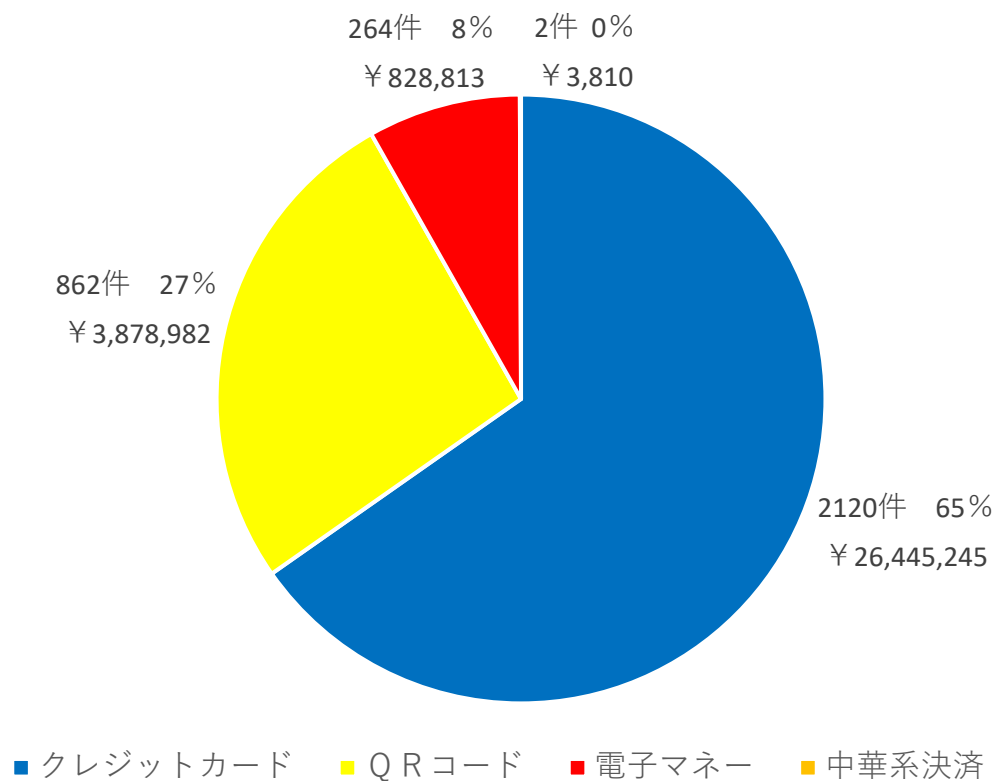
しかし、業務効率の改善やコロナ禍における接触機会の軽減・銀行への手間や手数料等を鑑みればキャッシュレス化はむしろメリットの方が大きいと思われま

す。本県は全国平均に比べ、キャッシュレス化が遅れている状況であり観光客等の購入機会を逃しているおそれがあり、早急な対応が必要になると考えま

す。また、今後、インバウンド利用が回復する際は、山形市への外国人観光客の約3割が中華系決済を使用すると思われるため、AliPayやWechatPay等の中華系QRコード決済も使用出来るようにすることも望ましいと考えま

全体合計	決済手段	ブランド等	件数内訳	金額	件数計	金額計	割合	平均単価
	クレジットカード	VISA/MASTER	1,491	¥ 17,573,760	2,120	¥ 26,445,245	65%	¥ 12,474
		JCB/AMEX/ DINERS/ DISCOVER	629	¥ 8,871,485				
	QRコード	PayPay	672	¥ 3,030,417	862	¥ 3,878,982	27%	¥ 4,500
		LINE Pay	5	¥ 22,920				
		d払い	127	¥ 618,255				
		メルペイ	21	¥ 41,900				
		au PAY	37	¥ 165,490				
		銀行Pay	0	¥ -				
	電子マネー	交通系IC	119	¥ 287,828	264	¥ 828,813	8%	¥ 3,139
WAON		62	¥ 175,735					
iD		83	¥ 365,250					
中華系決済	Alipay	1	¥ 1,480	2	¥ 3,810	0%	¥ 1,905	
	We Chat Pay	1	¥ 2,330					
	銀聯Pay	0	¥ -					
合計			3,248	¥ 31,156,850	3,248	¥ 31,156,850	100%	¥ 5,505

決済割合（全体）



モデル店舗ヒアリング結果

◇ キャッシュレス決済と現金の比率 3 : 7

◇ キャッシュレス決済の使用頻度 増加傾向

◇ 業務効率改善実感店舗 60%

◇ 利便性実感店舗 80%